

## 九州大学工学部所蔵鉱山・製錬関係史料

中西, 哲也  
九州大学総合研究博物館

井澤, 英二  
九州大学 : 名誉教授

宮崎, 克則  
九州大学総合研究博物館

<https://doi.org/10.15017/1546792>

---

出版情報 : 九州大学工学部所蔵鉱山・製錬関係史料, 2005-03. 宮崎克則  
バージョン :  
権利関係 :

# 本書についての解説

総合研究博物館 宮崎克則

本書では、九州大学工学部(旧)採鉱学科(地球資源システム工学部門)と(旧)冶金学科(材料工学部門)の図書室が所蔵する鉱山・製錬に関する江戸時代の記録史料を掲載している。

(旧)採鉱学科の「鉱山関連文書」も、(旧)冶金学科の「材料工学部門所蔵文書」もともに図書室の隅に保管されている状態で、カードや目録・ラベルもなかった。平成十三年から整理を始め、一点ごとに中性紙の袋に入れて一覧表を作成した(本書に掲載している)。

(旧)採鉱学科にある史料の多くは、岡田陽一教授の収集によるものであり、江戸時代から明治初期にかけての、日本の鉱山技術を知ることのできる史料群である。岡田陽一氏は明治三十年に東京帝国大学卒業、明治四五年(1912)七月に九大採鉱学講座の教授として着任。休職後、大正四年(1915)から選鉱学講座の講師として復職(大正六年から教授)、別子銅山の鉱石の選鉱や各種の選炭機の研究を行った。その一方で昭和十四年(1939)に退職するまでの間に江戸の鉱山技術に関する古文書や道具の収集に努めた。工学部列品室には大型の鉱物標本・採鉱道具・製錬炉模型などがあるが、ここでは文献史料のみを掲載している。

「鉱山関連文書」のなかには、南部藩の山師(南部御銅山廻銅支配人)で、尾去沢銅山における責任者のひとりであった内田家に伝えられた記録が含まれる。内田家は、現在の秋田県鹿角市の尾去沢鉱山において代々鉱山経営の実際に従事した家であり、多くの記録には内田慎吾の蔵書印がある。

内田慎吾は(天保九年〜大正十年、1838〜1921)、尾去沢銅山、内田九兵衛(五代)の三男として生まれた。内田家は明和二年(1765)に銅山が南部藩直営に移ったときに三代九兵衛が山内取締(後の支配人)となつて以来、四代・五代九兵衛と代々廻銅支配人として重きを



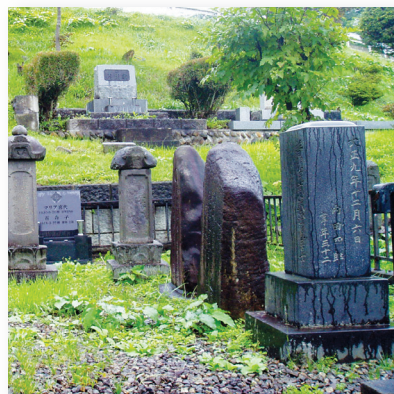
「鉱山関連文書」



「材料工学部門所蔵文書」



現在の尾去沢



尾去沢の内田家墓所

なしていた。内田慎吾は盛岡遊学の後十六才にして銅山御用見習いとなり、のち三沢廻り寸甫・台所寸甫などを勤め、出銅高の増大に精励した。この間の文久三年(1863)十一月に西洋発破の実地採用を命じられ、赤沢へ詰め大切鋪において実施したと記録されている。

元治二年(1865)、同役の川口理伸太とともに江戸行きを命ぜられ、横浜においてアメリカ人・フランス人・ポルトガル人と接触した。外国人より鉱山学を習得することの幕府の許可を得、横浜運上所にて伝習を受けることになったという。翌年四月、理伸太とふたり松田甚兵衛に同行し、公儀役人の資格をもって足尾銅山見分の役を果たした。明治元年(1868)の戊辰戦争に大砲方頭取として出陣後、同年秋に家督を相続、翌年五月に山先見習いとなった。同六年には銅山を辞し盛岡に出た。小野組の委嘱により岩手・宮城・山形三県下の小野組稼行の鉱山をはじめ数十か所の山を見分し、改めて小野組より秋田県官坑事務所へ引き継がれるにもない同山へ移ったが、同年四月の官業休止とともに職を辞して尾去沢へ帰った。のち尾去沢鉱山に何度も懇請されたが、長く勤務することはなかった。その間、東北諸山の山況について教示を得んとする客が絶えることなく、九年に盛岡の瀬川安五郎・阿仁官山の一條基緒の依頼により阿仁・荒川鉱山を、十一年には福島県下第六銀行支配人村井定吉の依頼により青森県下の諸鉱山を点検した。さらに同二十二年東京の浅野総一郎の委嘱をうけて宮城・福島・兵庫の三県および大阪府下の各鉱山を巡視している。後に尾去沢村長となり、大正十年(1921)に没した(「内田家系譜録」、『鹿角市史』三巻上、平成三年)。

「鉱山関連文書」のなかには、同じく東北の出羽秋田藩の大葛金山支配人の荒谷家の史料も少ないが含まれている(「荒谷家文書」の多くは、国文学研究資料館に保管されている)。出羽国秋田郡南比内大葛金山支配人・南比内二井田村の村役人を勤めた荒谷家は、代々横目役(国境守護役)に任じていたが、七代忠右衛門のとき大葛金山の手代となり、宝暦十一年(1761)に帯刀を許され金山経営を任された。七代忠右衛門は、明和元年(1764)、金方世話役・横目役を命ぜられ、次いで1779年に大葛金山を受山とした。大葛金山のほかにも院内銀山の稼行を命じられ、久保田(秋田)藩の十一の鉱山の稼人となった。そして明治三年(1870)に大葛金山支配人を免ぜられた。その後は、和漢の学を学ぶかたわら引続き他の鉱山の試掘・経営への投資を行い、山林や畜産などの諸事業をてがけた一方、政界にも進出し、秋田県会議長・衆議院議員を勤めている。